

総合教育センターだより

110号

平成26年3月発行

山梨県総合教育センター

マンパワー考

所長 坂本 明大

120年ぶりといわれる豪雪に見舞われ、各方面で大きな被害がもたらされました。交通網や物流が遮断され、「孤立」という文字がメディア上に溢れました。学校は雪に埋もれ、かつてない長い休校措置をとらざるを得ない状況でした。折しも総合教育センターでは研究発表大会を1週間後に控え、中止も危ぶまれる中、道路や鉄道の早期復旧を頼りに、懸命の除雪作業を行い、参加者の駐車場を確保し、無事に大会を開催することができました。

この作業をお願いする中で改めて痛感したことが、表題に掲げた「マンパワー」の威力とすばらしさです。除雪用重機があてにならない中で、人の手には負えないと思われる雪の壁や氷の塊を、全所員が各々持ち寄ったスコップ一本で少しずつ、しかし着実に崩し、運び、捨てる作業が延々と続きました。体は悲鳴をあげていましたが、少人数での除雪作業の時よりも遙かに張り合いがあり、楽しくさえ感じるのは私だけではなかったと思います。重機も入り3日に渡る作業を終え、目の前に現れた広々とした通路や駐車場を眺めた時、所員誰もが大会の成功を確信し、同時に、このような大変な時に、本センターの発表を聴きにお集まりいただく先生方のためにも、より質の高い発表会に仕上げなければならないと気持ちを新たにしました。今回、このような「協働体制」が学校現場を始め県内のあちらこちらで見られたことと思います。



さて、本教育センターでは今年度から、「学校組織マネジメント」の視点や考え方を各種研修会に取り入れ、教員の学校経営への参画意識、あるいは当事者意識を高めることを一つの目標として取り組んで参りました。従来「学校組織マネジメント」は校長、副校長、教頭という管理職に必須の理念として、それぞれの研修会でその理論や実践を紹介して参りましたが、今年度はこれを、中堅教員、五年・十年経験者、さらに一部ではあります。初任者の研修でも特に時間を割いてこの重要性を説いてきました。その理由は明快です。これらの教員を始めとするすべての教員が学校においては貴重な資産＝マンパワーであり、各校の教育目標達成の主体となるからです。

[1+1=3+α]という「学校組織マネジメント」のマジックを彼らに理解・実感してもらえさえすれば、管理職の役割は進むべき方向の明確な指示、個々の教員の特性に応じた役割分担、そしてタイムリーな励ましの声かけだけ、と極言する人もいます。

今、学校現場では山積する課題への対応に迫られ、教員はともすれば多忙感に埋もれ、「孤立」した教員が心身の健康を損なう例をも耳にします。このような状況は、まさに今回の大雪に埋もれた学校の姿に通じるところがあり、ここから脱出するためには、心をつにした組織の力、マンパワーの結集が最も有効ではないかと考えます。

今後も総合教育センターは、教員個人の資質能力の向上に資すると共に、組織としての学校をしっかりと支援できるよう一層の努力を続けて参ります。

研究発表大会を終えて

研究開発部長 山下 一雄

山梨県内は、2月14日(金)から観測史上記録的な大雪に見舞われました。全県各学校では、2月24日(月)に予定されているセンター研究発表大会が開催できるのか、心配されているのではと考え、2月19日(水)に、予定通り開催する旨、お知らせしました。当日の御参会については、足下の悪い中、公共交通機関の利用や車の乗り合わせ等御協力いただき、ありがとうございました。おかげさまで、駐車場の確保ができました。

午前中の「言語活動の充実」で著名な横浜国立大学高木展郎教授の特別講演や基調提案を受けて、「学校教育を支援する実践的研究」のテーマの下、午後は、研修主事によるグループ研究、こすもす教室研究、一般留学生研究と研究成果を発表させていただきました。様々なアプローチから、学校現場が必要とし、学校現場に具体的に還元できる研究成果の構築を目指して参りました。「各発表とも実態調査等を基にした研究の主題設定と実践内容になっており、所属校の実態と照らしながら、自校の問題として考えながら学ぶことができた」と参加者からお褒めの言葉もいただきました。当初参加予定の学校も、大雪の影響で参会できない状況もありました。各グループ研究の報告書については、「研究紀要」として本センターのホームページで公開するとともに、CDに収録して来年度4月に県内各学校及び関係教育機関に配付いたします。御活用いただければ幸いです。



次年度以降も、「研究のための研究」に陥ることなく、参加してくださった皆様方の御意見を参考にしながら、学校教育を実践的に支援するための研究に鋭意取り組んで参ります。

教育指導部

「学習指導要領の改訂に伴う今日的な課題を踏まえ、教職員の資質能力の向上と意識改革を図り、児童生徒に『生きる力』を育み、学校教育の振興と充実に資するために、教育経営・経年・教科等・教育課題・教育相談・相談支援・特別支援教育・情報教育・外部共催の各研修会の企画・運営等を統括するとともに研修会の質の向上に努める」これは、当センター教育指導部の運営方針です。私たち教職員は、最新の情報に触れ、喫緊の教育課題について正しく捉え、常に指導法等の改善に取り組み、児童生徒のためによりよい授業作りなどを目指していかねばなりません。

本年度は、そういった喫緊の課題であるタブレットなどのICTに対応した研修や小学校外国語活動と中学校の英語科の接続を意識した研修、「言語活動の充実」に資する研修等を取り入れ、また昨年度に引き続き研修方法の改善として「体験・参加型研修」の積極的導入を図りました。その結果、本年度は当センターで用意した141の研修会に、延べ14,000人余りが受講しました。

平成26年度の研修会は、県内児童生徒の学力向上を図り、受講者に研修会の必要性をより感じ取ってもらうために「学校組織マネジメント」の視点を取り入れ、これまで以上に総合教育センターの機能を発揮できるよう本庁とも連携して、教育経営研修や初任者研修、五年経験者研修などの経年研修をはじめとして、各研修会の内容と運営の更なる精選と充実に取り組み、145研修に改編して実施することとなりました。

これからも、センターHPに掲載されている研修会実施要項の閲覧がしやすいように、また各校に配付する「研修会の手引」や「実施研修会一覧表」が活用しやすいように工夫を重ね、多くの先生方に総合教育センターの研修会に参加していただき、自己研さんに努めてくださるよう鋭意努力していきたく思います。



研究開発部

研究開発部は、学校における教育活動の改善や発展に不可欠な校内研究の支援、喫緊の教育課題の解決に向けた調査・研究及び学習指導法や指導計画の開発等の研究を行っています。また、センター研究の推進を担当する役割も担っています。

本年度も「各校種の教育活動に応じた指導方法の改善プランの研究や開発をより多くの主事の力を結集させて充実、深化させよう」とグループ研究を推進して参りました。複数年研究も取り入れて、9つのグループを編成し、教育課題研究、相談支援教育研究、情報教育研究、及び教育課程実施状況調査研究に取り組んで参りました。これらの研究の成果は平成26年2月24日の研究発表大会で報告させていただきました。

また、本年度6月の特別講演会では、筑波大学大学院教授の田中統治先生が、カリキュラムという発想による学習指導の改善について、また研究発表大会当日には横浜国立大学教授の高木展郎先生が、今日求められている学力と授業改善について講演して下さり、これからの学校教育の在り方や方向性について示していただきました。来年度6月17日の特別講演会では、いじめ問題の解決において学校で必要なことについて、奈良教育大学大学院教授の池島徳大先生をお招きし、講演していただく予定です。

来年度、「学校の現状に即した今日的教育課題を把握し、課題解決のための調査・研究及び指導計画・指導方法の研究・開発を推進する。また、研究の成果や適時な教育情報の普及・広報を行うとともに、学校や教職員に対し相談・支援等を行う。これらを通して学校教育の充実に寄与する。なお、全体研究テーマは『学校教育を支援する実践的な研究』とし、研究を推進する。」の運営方針の下、今後も引き続き、教育研究活動の拠点及び情報の発信源として、県内学校教育の発展に寄与すべく努力して参ります。





本年度、情報教育に関する研修会について、喫緊の課題、ICT活用基礎、アプリケーション基礎・応用、ネットワーク及びシステム管理の5つの領域で22研修を実施してきました。いずれも「教育の情報化」が目指す、児童生徒の情報活用能力の育成とICTを効果的に活用した分かる授業の実践、校務の情報化の推進と普及を支援する内容でした。延べ500人余りが受講しましたが、校務や学習活動に直接還元できる内容だったという評価で、どの研修会も満足度の高さは100%に近いものばかりでした。

また、ICT活用研究グループが作成・収集したデジタル教材はこの2年間で110点を超

え、登録した教材は全て、PowerPoint又はWebブラウザのいずれかで動作できるようになっています。授業の内容に合わせて変更でき、指導教材・教具のひとつとして必要な場面で活用することで、学習意欲を喚起し、学習内容の確実な定着につながります。

来年度のICT活用基礎研修では、「初めてのタブレット体験」と「授業におけるタブレット活用」の2研修を企画しています。今後も情報教育研修の一層の充実に努め、現場のニーズに応えられる取組にするとともに、デジタルコンテンツの積極的な配信に努めていきます。

児童生徒の情報活用能力の育成とICTを効果的に活用した分かる授業を目指してセンターの研修会や情報資産を十二分に活用することを願っています。



～児童生徒への支援や対応で困っていませんか？～

「登校を渋る」「学校へ来ると元気がない」「友達や先生とうまく関われない」「感情をコントロールできない」「家から出ない」等々、気になる児童生徒はいませんか。相談支援部は、様々な課題を抱える幼児児童生徒の健やかな成長を願い、本人と保護者はもとより、学校と先生方を支援しています。

以下の相談支援部各担当が、先生方のお手伝いをします。より効果的な支援ができるよう、私たちと一緒に考えましょう。どうぞ、私たち相談支援部をお気軽に御活用ください。

【教育相談担当】

4名のスタッフで、いじめや不登校等の予防や解決を目指し、児童生徒、保護者及び先生方を対象とした面接相談や電話相談、学校に出向いての研修会を実施しています。また、いじめや不登校等の予防に視点をおき、学校現場の課題解決に生かせる研修・研究を行い学校に還元しています。



- (ア) 面接相談(平日9:00～17:00 ☎055-263-3711 *予約制)
- (イ) 電話相談(365日24時間体制 電話相談員が対応、☎055-263-3711)



【特別支援教育担当】

4名のスタッフで、障害のある幼児児童生徒の教育の充実に目指し、本人、保護者及び先生方を対象とした面接相談や電話相談、学校に出向いての研修会や訪問相談を実施しています。また、特別支援教育の現場に役立つ実践的な研修・研究を行い学校に還元しています。

- (ア) 面接相談、訪問相談(平日9:00～17:00 ☎055-263-4606 *予約制)
- (イ) 電話相談(平日9:00～17:00 ☎055-263-4606)



【適応指導教室(石和・葦崎・都留こすもす教室)】

県内3教室において、不登校児童生徒の心の居場所づくりを第一に考え、人間味のある温かい教室運営を基本に、自立に向けた適応指導や学習指導を行っています。また、保護者や教職員からの相談にも応じています。現在3教室合わせて90名の児童生徒が元気に通室しています。

- (ア) 石和こすもす教室(スタッフ6名、笛吹市石和町市部524 ☎055-261-1271)
- (イ) 葦崎こすもす教室(スタッフ5名、葦崎市若宮2-6-12 ☎0551-22-1133)
- (ウ) 都留こすもす教室(スタッフ4名、都留市田野倉1331-1 ☎0554-45-1161)

平成26年度「研修会申込事務説明会」を次の日程で開催いたします。当日は、「新研究主任研修会(107)」の終了後、引き続き本説明会を行います。申込手続について新たに変更する内容がありますので、各校の申込事務担当者の先生方は、必ず御参加くださいますようお願いいたします。このことについては、文書をメールで発送しますので御確認ください。

平成26年度 研修会申込手続について

●日時 4月8日(火) 14:40~16:50 (受付14:10~)

●場所 山梨県総合教育センター大研修室



★ 新研究主任研修会(107)は、同日13:15~14:20(受付13:00~)

第3研修室で実施されます。

《研修会申込手続に関する主な日程》

3月中旬 各校へ「研修会申込事務説明会の開催通知」の発送

4月 8日(火) 「研修会申込事務説明会」

4月11日(金) 早期実施研修会申込締切

5月 7日(水) 第一次受講申込締切(7月22日以前の研修会)

6月13日(金) 第二次受講申込締切(7月23日以降の研修会)

メールマガジンの登録をしましょう

こんなことを配信します

- ★総合教育センターや県教育委員会からの最新情報
- ★県内外の公開研究発表会や教育に関する催しの情報
- ★新着図書・資料の案内
- ★学校現場で役立つ工夫などを連載

登録は当センターHP

<http://www.ypec.ed.jp/>から

出前研修について

目的 学校等の研究活動の支援

派遣先 県内国公市立学校(含む大学、幼稚園、保育所)、教育関係機関、教育関係団体

派遣内容 研修主事等の専門性や主事研究の内容等に関する研究会や講演会等において、共同研究、指導、助言、講演等を行う

平成25年度は、各教科・各領域 **249件** の研修に **275名** の主事が派遣されました。来年度もぜひ御活用ください。詳細については、4月にお知らせします。

編集発行 山梨県総合教育センター
山梨県笛吹市御坂町成田 1456
電話 055-262-5571(代)
Fax 055-262-5572
発行責任者 所長 坂本 明大
発行日 平成26年3月17日